

## 新図書館での新サービス

利用される方にとって使いやすい図書館を目指して、当時としては画期的なサービスや新たな試みも始めました。本の館外貸出が始まったのも、この時からです。

多くの資料を手にとって選べる大規模開架方式に加え、閉架書庫と1～4階カウンターとを結ぶコンピュータ制御の資料搬送システムが導入されました。

また、児童図書室、音響・映像資料を提供するAV資料室などを新設。視覚に障害のある方のための録音・点字図書の貸出、録音図書の作成、対面朗読サービスなども始めました。



資料搬送システム



児童図書室



対面朗読室

## 電算システムの導入



目録カードに替わって、すべての資料がコンピュータ端末で検索できるようになりました。

現在も使われている利用カードのデザインは、当館職員がアイデアを出し合って生まれました。

L(ライブラリー)を象った本とA(あいち)を象った椅子、そして本の妖精がモチーフです。

## 図書館未設置市町村支援

開館当時、県内には図書館のない市町村が、35ありました。(現在は6町村)

バスに本を積んで、図書館のない市町村を回る移動図書館車「いずみ号」を県教育委員会から引き継ぎ、平成12年3月まで運用しました。現在、図書館のない自治体への支援は、本をまとめて貸し出す「貸出文庫」という形で続いています。



移動図書館車「いずみ号」